

半導体治工具生産で攻勢



導入した碌々産業の微細加工機「MEGA-SSS」

須藤精密 微細加工機 追加導入

【立川】須藤精密（東京都瑞穂町、八幡直幸社長）は、半導体関連治工具の生産体制を拡充した。微細加工機を1台追加、5月にはワイヤ放電加工機と形彫放電加工機を導入する。同社は2021年も微細加工機やマシンニングセンター（MC）を導入しており、今後の半導体需要の盛り上がりを見据えた生産体制拡充を継続する。総投資額は約6000万円。

追加導入したのは碌々産業（東京都港区）の微細加工機「MEGA-SSS」で本社工場の恒温室に設置した。本機を合わせ同社製微細加工機は9台となった。今後はソディック製ワイヤ放電加工機の「ALN600Q」、アイトロニクス（兵庫県西宮市）製形彫放電加工機の「AX1601」を導入する。

設備増強と同時に、製造現場・営業の人員体制拡充も進める。八幡社長は「半導体関連を深耕していくことに加え、航空機・食品・医療分野にも技術を水平展開し、顧客開拓を進めたい」という。一連の設備増強などにより、25年5月期の売上高を22年5月期見込みに比べ20%増やすことを目指す。

須藤精密は半導体関連の治工具生産では、多品種少量・顧客ニーズへの対応力が強み。来期は50期目の節目を迎える。